

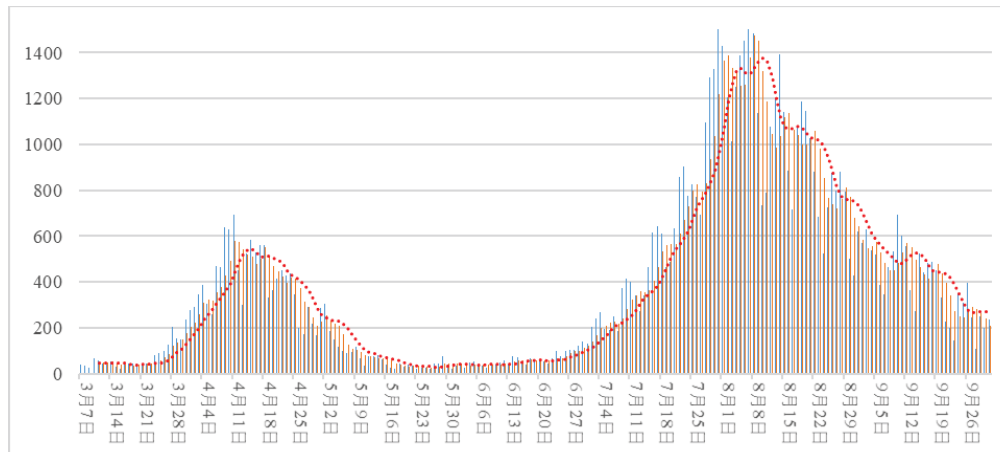
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2020年10月6日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

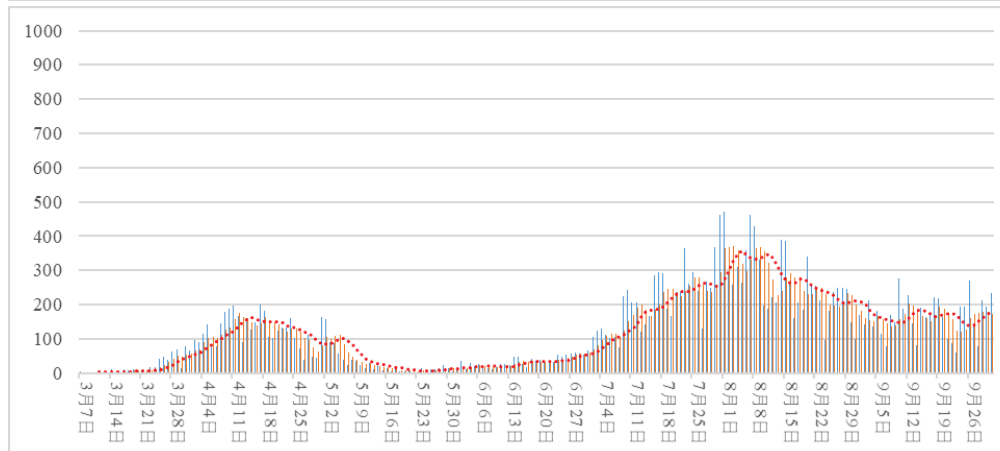
I 流行のリアルタイム評価

- 全国では2回目のピーク以降急速に減少しているが、東京は9月以降横ばいである。

全国



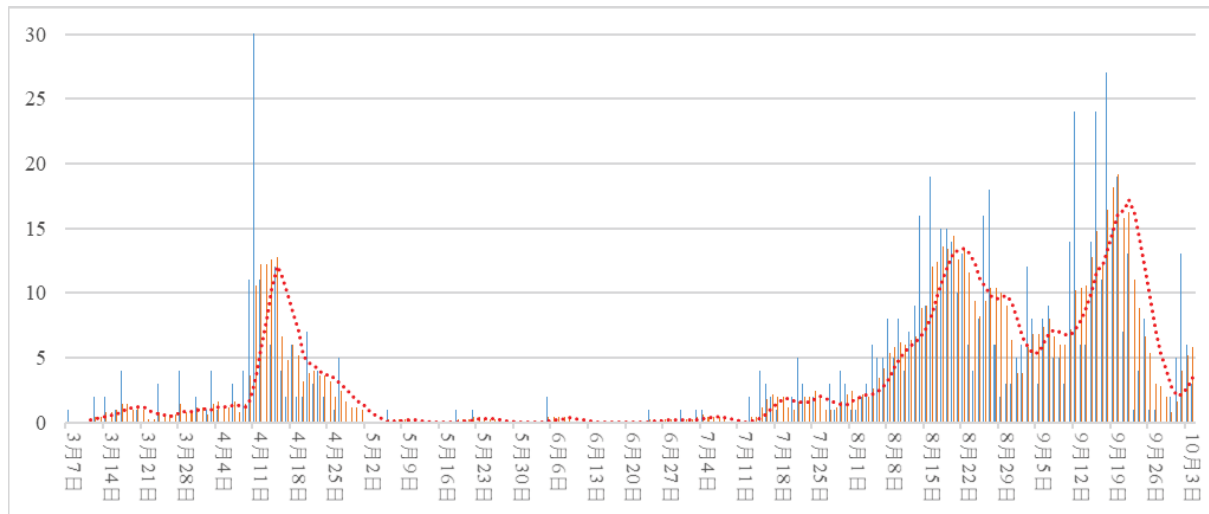
東京



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

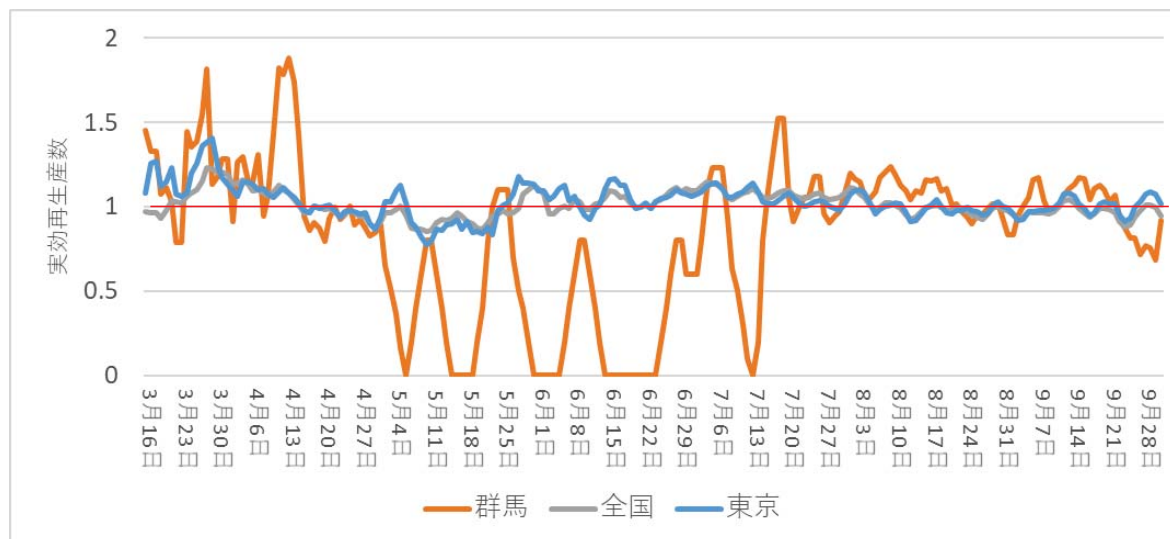
- 群馬県では8月に入ってクラスターの報告により増減を繰り返したが、9月後半は減少傾向にある。



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

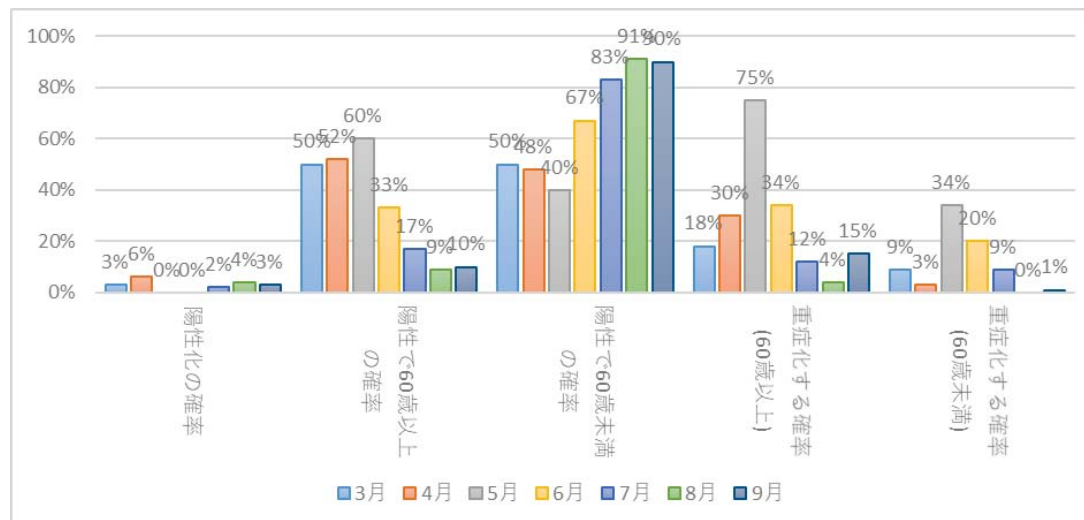
I 流行のリアルタイム評価

- 実効再生産数の推定値は，8月から全国は減少（最新値：全国**0.94**），東京は横ばいである（最新値：東京都**1.01**）。
 - 群馬県は8-9月にいったん増加したが，9月後半には減少した（最新値：群馬県**0.92**）。
- ※1を下回ると流行は縮小していると判断できる。



Ⅱ PCR等検査結果予測

- 月別のPCR検査（抗原検査含む）件数から陽性者が出る確率をベイズ推定した(Rstanを使用)。
- 検査で陽性化する確率は，9月は3%だった。
- 陽性者が60歳未満である確率は8月，9月ともに90%程度，60歳以上は10%程度であった。
- 陽性者が重症化する確率は，60歳以上で15%に上昇した。60歳未満は1%程度であった。



まとめ

- PCR陽性者等の報告数は、全国と群馬県で減少傾向だったが、東京都は横ばいだった。
- 8月と9月は60歳未満の比較的若い世代で拡大していた。会食や集会など行う場合は、感染対策を徹底することが求められる。
- 少ないながらも重症化の事例が報告されている。特に基礎疾患等リスクのある人は注意すること。
- 群馬県では現在の陽性者等の報告数は落ち着いているが、冬季にどの程度報告数が増加するか不明である。感染が拡大しないよう、引き続き対策を徹底することが重要である。